



決め手は、青森県産。

りんご生産情報第10号
(8月24日～9月20日)



令和元年8月23日発表 樹上選果マン
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

つがるの収穫は、9月7日頃から！
着果量を点検し、樹上選果の徹底を！！
台風に備え、風害防止対策を万全に！！

I 概要

8月21日現在、果実肥大は土壌の乾燥等の影響で、鈍化傾向であり、地域により差があるが、概ね平年並みから平年をやや上回っている。

つがるの熟度は、平年より3日程度進んでいることから、収穫始めは、黒石で9月7日頃から見込まれる。収穫が遅れると軟質化など品質低下につながるため、果肉の熟度に合わせてすぐりもぎを行う。

適正着果に向けて樹上選果が行われているが、園地や品種によっては着果量の多い樹がまだ見られる。着色管理や収穫の際に、見落としがないか今一度着果量を点検し、樹上選果を徹底する。

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月30日～31日頃に行う。

黒星病の発病葉・発病果は感染源となるので、葉摘み作業等の際にも見つけ次第摘み取り処分する。また、感染を防ぐため、中・晩生種を対象に9月15日頃にオーソサイド水和剤80の800倍又はストライド顆粒水和剤1,500倍を散布する。

台風に備え、防風網の点検、補強など風害防止対策をしっかりと行う。

農作業事故が多発しているため、慣れた作業でも油断せず、注意して行う。

II りんご生産情報

1 果実肥大、果実熟度、作業の進み

(1) 果実肥大

8月21日現在、果実肥大は土壌の乾燥等の影響で、鈍化傾向であり、地域により差があるが、概ね平年並みから平年をやや上回っている。

果実肥大 (8月21日現在、横径：cm、平年比：%)

地 域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ じ
黒 石 (りんご研究所)	本 年	7.5	/	6.7
	平 年	8.0		7.2
	前 年	8.4		7.5
	平年比	94		93
弘前市独狐 (中南地域県民局)	本 年	8.3	7.8	7.6
	平 年	8.3	7.7	7.1
	前 年	8.3	7.8	7.0
	平年比	100	101	107
板柳町五幾形 (西北地域県民局)	本 年	8.4	7.9	7.7
	平 年	8.2	8.1	7.1
	前 年	8.6	8.7	7.5
	平年比	102	98	108
三戸町梅内 (三八地域県民局)	本 年	8.2	7.6	7.3
	平 年	8.1	7.7	6.9
	前 年	8.2	7.8	7.3
	平年比	101	99	106

※各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

(2) つがるの果実熟度

8月20日現在の熟度は、黒石で平年値と比較して、硬度及び糖度は高く、着色指数は同程度、ヨード反応はやや低く、酸度は低い。総合的にみて、熟度は平年より3日程度進んでいると見込まれる。

つがる(無袋)の熟度の進み

(調査月日：黒石8月20日)

地 域	年	果 重 (g)	着 色	硬 度 (ホント°)	糖 度 (brix%)	酸 度 (g/100ml)	ヨード 反 応
黒 石 (りんご研究所)	本年	200	0.5	17.2	12.8	0.273	4.5
	平年	223	0.5	16.4	10.8	0.328	4.8
	前年	238	0.6	16.3	10.4	0.292	4.3

注1 着 色：指数0～5 大きい数値ほど着色良好

2 ヨード反応：指数0～5 小さい数値ほどでんぷんが少ない

3 落果防止剤散布：8月14日

(3) 作業の進み(8月21日現在)

徒長枝整理や支柱入れ、つがる等早生種の着色管理が行われている。

2 作業の重点

(1) 樹上選果

ふじ、王林等で着果量の多い樹がまだ見られる。今一度着果量を点検し、肥大の劣るものや果形の悪いもの、黒星病などの病害虫被害果、障害果の摘果を徹底する。なお、摘み取った病害虫被害果は適正に処分する。

(2) 黒星病対策

二次感染や翌年の感染を防ぐために、葉摘み作業等の際にも発病葉・発病果は見つけ次第摘み取り、適正に処分する。

(3) 「8月末」の薬剤散布

「8月末」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で8月30日～31日頃に行う。

散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布に徹する。また、散布むらを生じないように十分な量を丁寧に散布する。

薬剤の散布にあたっては、収穫前日数や年間使用回数などに注意する。

シンクイムシ類の産卵が続いているので、防除剤を使用する。

「8月末」の薬剤散布

地域	時期	薬剤名と倍数	散布量 /10a	
黒石 弘前 三戸	8月30 ～31日頃	ベフラン液剤25 又はアリエッティC水和剤 又はダイパワー水和剤	1,500倍 800倍 1,000倍	5000

①ベフラン液剤25を選択した場合、炭疽病の発生が例年多い園地では、オーソサイド水和剤80 800倍も散布する。

②ベフラン液剤25やアリエッティC水和剤は、殺虫剤又は殺ダニ剤と組み合わせる場合、最後に調合する。

(4) 「9月中旬」の薬剤散布（中・晩生種対象）

「9月中旬」の薬剤散布は、黒石、弘前、三戸で9月15日頃に行う。

散布予定日に降雨が予想される場合には、事前散布に徹する。また、散布むらを生じないように十分な量を丁寧に散布する。

薬剤の散布にあたっては、収穫前日数や年間使用回数などに注意する。

「9月中旬」の薬剤散布（中・晩生種対象）

地域	時期	薬剤名と倍数	散布量 /10a	
黒石 弘前 三戸	9月15日頃	オーソサイド水和剤80 又はストライド顆粒水和剤	800倍 1,500倍	5000

(5) 早生種の収穫

つがるの熟度は、平年より3日程度進んでいることから、早生種の収穫始めは黒石で、きおうが8月29日頃、つがるが9月7日頃からと見込まれる。

早生種は、熟期が揃わないので地色、着色を見て2～3回くらいに分けて収穫する。収穫が遅れると軟質化など品質低下につながるため、果肉の熟度に合わせて適期に収穫する。

山選果では、変形果や日焼け果、傷（障）害程度の大きい果実などを取り除き、良品出荷に努める。なお、山選果で取り除いた果実は、できるだけ加工用に仕向ける。

収穫した果実は、高温下に置くと果肉の軟化、油あがり及早くなるので、すみやかに冷蔵施設に搬入する。

なお、ストッポール液剤を散布した果実は散布7日後まで、ヒオモン水溶剤を散布した果実は散布4日後までは収穫できないので注意する。

(6) 徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊り

病虫害の発生源を少なくし、樹冠内部に十分日光を入れ、薬液の到達をよくするために、黄色品種でも不要な徒長枝を切り取る。

また、果実が大きくなるにつれて枝が下がり、重なり合ってくるので、日焼けが発生しないように注意しながら支柱入れや枝吊りを行う。

ただし、高温・晴天が続く場合は、果実の日焼けを起こさないように、徒長枝の整理、支柱入れ、枝吊りなどは控える。

(7) 乾燥対策

土壌が乾燥状態にある園地では、1㎡当たり20ℓ程度をかん水する。また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(8) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍も使用する。ポリオキシシンAL水和剤は、薬剤耐性の恐れがあるので、連続散布を避ける。

(9) 炭疽病対策

りんご園周辺のニセアカシアやくるみ類などは伝染源となるので注意する。また、発病果は見つけ次第摘み取り、土中に埋める。

(10) 腐らん病対策

夏場は病斑の拡大が一時停止しているが、降雨により未処置病斑から胞子が飛散し、来年以降の発生につながる。胴腐らの治療部を再点検し、病斑の伸展が

見られる場合は直ちに適切な処置を行う。

(11) ハダニ類対策

ハダニ類の発生種を確認し、発生動向を見極めながら適正な防除を行う。散布の目安は、1葉当たり2個体以上あるいは寄生葉率50%以上である。

殺ダニ剤は薬剤抵抗性が出やすいので、年2回以内使用のものでも年1回の使用とする。ただし、ダニサラバフロアブル、スターマイトフロアブル、ダニコングフロアブルは、作用点と同じ薬剤なので合わせて年1回以内の使用とする。

サンマイト水和剤とバロックフロアブルは、リンゴハダニだけの、マイトコーネフロアブルは、ナミハダニだけの適用なので、薬剤の選択には十分注意する。

リンゴハダニとナミハダニに対する殺ダニ剤の適用表

薬 剤 名	年間使用回数	リンゴハダニ	ナミハダニ
サンマイト水和剤	1回	○	×
バロックフロアブル	2回以内	○	×
エコマイト顆粒水和剤	1回	○	○
オマイト水和剤	1回	○	○
コロマイト乳剤	1回	○	○
マイトコーネフロアブル	1回	×	○
ダニサラバフロアブル※	2回以内	○	○
スターマイトフロアブル※	1回	○	○
ダニコングフロアブル※	1回	○	○

○：適用する、×：適用しない

※：ダニサラバ、スターマイト、ダニコングは合わせて年1回の使用とする。

(12) モモシンクイガ対策

被害果は見つけ次第、摘み取り7日以上の水漬けなど適切な処置をする。もも、なし、日本すもも、プルーン、マルメロなども発生源となるので、適切な管理を行う。

(13) ナシヒメシンクイ対策

発生の多い園地では、9月以降もナシヒメシンクイ防除剤を使用する。

(14) リンゴコカクモンハマキ対策

発生の多いところでは、フェロモントラップによる成虫の誘引消長を利用して適期にサムコルフロアブル10の5,000倍、エクシレルSE5,000倍、フェニックスフロアブル4,000倍、ディアナWDG10,000倍のいずれかを散布する。また、果実に接触している葉を摘み取って、果実被害の軽減に努める。

(15) クワコナカイガラムシ対策

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋し被害の軽減を図る。

(16) 中・晩生種の着色手入れ

着色手入れは、早生ふじは9月10日頃から、シナノスイート及びジョナゴールド（無袋）は9月20日頃からは行う。

なお、早くからの強い葉摘みは、品質低下を招くので行わない。

摘葉剤ジョンカラプロを利用する場合は、ふじのみとし、使用時期「収穫40～50日前」とする。散布後30日間は収穫できないので注意する。

(17) 中生種の除袋

ジョナゴールドの除袋は、9月15日～25日にかけて行う。着色むらをなくし、リンゴコカクモンハマキの食害を防ぐため、外袋をはぐ時は、果実に密着している葉も摘み取る。

日焼けを出さないため、二重袋の内袋は、果実の色が黄色みがかかった時、あるいは薄い縞が入った時にはぐ。

(18) ビターピット防止対策

樹勢が強く、果実肥大が旺盛な園地では、ビターピットの発生が懸念されるので、カルシウム剤の果面散布を行う。

カルシウム剤は、直接果実に付着するように散布する。なお、樹勢の弱い樹や高温時あるいは干ばつ時の散布は、薬害発生（葉縁褐変）のおそれがあるので避ける。

カルシウム剤の散布方法

資材名	散布時期 (散布間隔)	資材形状	水100ℓ当たり 使用量 (倍数)	散布回数 (回)
スイカル	6月上旬～9月中旬 (10日以上)	粉状	330 g (300倍)	3～5
セルバイン	6月上旬～9月上旬 (10日以上)	粉状	250 g (400倍)	3～5
アグリメイト	6月上旬～9月中旬 (15日以上)	液状	200ml (500倍)	5

(19) 風害防止対策

これから台風等の接近が多くなる時期になる。防風網やわい性台樹の結束などについて、再度点検し、補強や取り替えを行う。

また、幹や主枝などに空洞が生じている樹や、腐らん病の被害等を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(20) 鳥害防止対策

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。なお、防鳥網の網目は35mm以下とする。

3 一般作業

- (1) 苦土欠乏対策 (2) 草刈り

4 今後の作業予定

- (1) 樹上選果 (2) 着色手入れ、除袋、収穫
(3) 風害防止対策 (4) 支柱手直し (5) 鳥害防止対策 (6) 草刈り
(7) 腐らん病対策

— 樹上選果推進期間（8月下旬～収穫期） —

美味しいりんごを届けよう！

《 農薬使用基準の遵守 》

青森県農薬危害防止運動期間中（5月1日～8月31日）です！

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

また、短期暴露評価の導入により使用方法が変更される農薬は、登録内容の変更前であっても、変更後の使用方法で使用する必要があるため、変更の有無を次のWebサイトで確認してから使用する。

○農林水産省「農薬情報」

http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_info/

○(独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報提供システム」

http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm

○青森県農業情報サービスネットワーク「アップルネット」農薬情報

<http://www.applenet.jp/>

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように、農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《 ポジティブリスト制への対応 》

農薬の飛散により、周辺住民及び作物に被害を及ぼすことのないように、散布情報の提供・交換等地域が連携し、農薬飛散低減対策に留意して散布を行う。

～農業保険（農業共済及び収入保険）への加入について～
自分にあったセーフティネットに加入し、農業経営に万全の備えを！

○農業共済

「農業共済」は、自然災害等により農作物・家畜・園芸施設に損害が生じた場合に補償される制度です。

○農業経営収入保険

令和元年から始まった「農業経営収入保険」は、自然災害に加え、農産物の価格低下などにより販売収入が減少した場合に補償される制度です。加入には、青色申告の実績が条件となっています。

※詳しくは、お近くの農業共済組合にお問い合わせください。

《 《 参観デーのお知らせ 》 》

りんご研究所（黒石市） 9月 5日（木） 9時～16時
～6日（金） 9時～15時

りんご研究所県南果樹部（五戸町） 9月12日（木） 9時～15時

詳しくは、産業技術センターりんご研究所のホームページ (<https://www.aomori-itc.or.jp/docs/2019071800011/>) をご覧ください。

秋の農作業安全運動展開中！

- ・慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
- ・必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- ・自分を過信せず、無理のない作業を行いましょう。
- ・一人での作業は避け、やむを得ず一人で行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持ちましょう。
- ・家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけましょう。

山火事など火災の発生防止に努めましょう！

災害に備えて、果樹共済や農業経営収入保険に加入しましょう！

次回の「りんご生産情報」第11号は9月20日（金）発表の予定です。

連絡先 : りんご果樹課生産振興グループ
電話番号 : 017-722-1111代表
 内線 5092, 5097
 017-734-9492直通